

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0971200365		
法人名	社会福祉法人 京福会		
事業所名	グループホーム安暮里(満天の家)		
所在地	栃木県那須塩原市鍋掛1416-3		
自己評価作成日	平成 25年 12月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の協力病院である黒磯病院との医療連携体制の下、入居者様の日々の健康管理は勿論のこと、体調不良の早期発見や入院後の早期退院等にも向け取り組んでいます。又、認知症介護の実践者研修、リーダー研修の指導者として関わる職員もあり、入居者様の想いに寄り添いながらの支援をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人母体である医療機関と医療連携を密にとり、併設事業所には看護師が常駐して、利用者の心身状態に応じた細やかな支援に努めている。又、理念にも謳っている利用者・職員共に「幸せだ」と感じる時間を大切にしている。重度化に至っても、利用者の思いや力を引き出しながら、お互いが協働して、和やかな生活ができるように、家庭的で温かな雰囲気づくりに努めている。家族と利用者のつながりを大切に、家族の面会時には労をねぎらう言葉かけをし、日々の暮らしの出来事を広報誌などで発信するなどの工夫をして情報の共有に努め、利用者を家族と共に支えていくための関係を築いている。また、広大な庭園を車椅子で散歩できるなど、環境にも恵まれた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内(台所)に運営理念を提示し目に来る状況の中、入居者様やご家族様との係わりに取り組んでいます。	利用者・職員共に「幸せだ」と思える時間を多くする、という理念の実践に取り組んでいる。利用者の思いや力を引き出し、共に行動し、家族とのふれあいを大切にしている。日々のケアを振り返り、理念を掘り下げ、具体的なケアについて確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様同伴による近隣スーパーへの買出しにて定員との馴染みは勿論の事、「運営推進会議」への参加も頂いたり、又、夏祭りには、地域の婦人会、おはやしグループ等の参加もあり、交流を深めている。	法人主催の行事に婦人会やお囃子グループの参加があり、地域の方がボランティアで訪問してくれる。近隣の中学生が実習に来たり、近くのスーパーへ買物に行くなど、自然と馴染みの関係づくりができ、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「運営推進会議」の中で、認知症への理解や支援方法を伝えたり、地元の方々が見学や在宅介護の相談に来る際は、よく話を聞いた上で、認知症に関するアドバイスや、頑張り過ぎないようにとも伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、行政、地域包括支援の職員、市議会議員、民生委員、又、議題により駐在さんや消防署員の参加ある中、毎月の「定例会」の資料を配布し遠慮のない活発なご意見、ご指導等頂いている。	運営推進会議は、家族や地域住民などが参加し、議題によっては消防や介護相談員などの専門家に参加してもらい2ヶ月に1回開催している。定例会の資料を配布して、各種委員会やミニ学習会・行事予定などの報告をし、参加メンバーからの質問に応じ、意見交換をしてサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「運営推進会議」や毎月の「地域密着型サービス利用状況報告書」の提出等にて顔を合わせており、ホームへの理解と共に、日頃より相談事やアドバイスも頂いております。	市担当者には、運営推進会議で発言してもらうほか、事業所の考え方や運営の実状を伝えて、情報の共有を図っている。課題解決に向けて話し合い、アドバイスをもらうなど、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」を設置し、又、毎月の定例会での話し合いと確認の下、全職員にて身体拘束のないケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会や虐待防止委員会を設置し、定例会にて、全職員に周知を図っている。また、利用者一人ひとりの抱える根本的な不安を取り除くケアの実践に取り組んでいる。玄関は施錠せず、全職員が個々の意識を高めて、見守りを徹底するなどの工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止委員会」を設置し、毎月の定例会の中で毎回必ず話し合うなど、全員での周知に心掛けています。		

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、既に「あすてらす」利用の入居者様が おられ、職員の理解あり。と、同時に、今後 も必要であれば支援の方向でいます。又、 法人内の「学習会」でも取り上げ、全職員で の理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	入所の際に、重要事項等の説明は勿論のこと、 ホームでの生活に関する不安や質問等 にも答えるなど、時間をかけ、納得して頂け るよう心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	入居者様に関しては、日々の、何気ない会 話の中から、又、ご家族様に関しては、毎月 の面会時や交替で参加頂いている「運営推 進会議」の中で、遠慮のない意見の下、運 営に反映させています。	日頃から、利用者とのなにげない会話に耳を傾け ている。家族からは、運営推進会議で意見を出し てもらっている。また、毎月直接利用料の支払い に来て頂く時や面会時に話を聞くほか、意見や要 望を記載できるように面会簿を工夫して、運営に 反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施中の定例会の中で、介護現場の 確認や意見交換等行っている。	管理者は、定例会において職員の意見や提 案を聞く機会を設け、運営に取り入れて、 サービス向上に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職員一人ひとり、責任ある仕事をしていく 中、法人として、学習会(学びの場)や、又、 職員旅行(海外もあり)も実施しており、各自 が働きやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	認知症実践者研修への参加や、毎月実施 中の法人内[合同学習会]、又、日々の介護 現場においても、職員一人ひとりが知識を 身に付けられるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	H, 20年「那須塩原市地域密着型サービス 事業者連絡協議会」が発足し、職員も交替 で参加、他事業者との交流にて、共通の悩 みを話し合ったり、サービスの質の向上にも つなげています。		

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の事前調査として、ご家族や担当ケアマネからの情報提供や、本人の様子観察等行った上での入所となり、又、入所後も、日々、職員の気づきを記録、確認しつつ本人との係わりや把握に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みでの来所時や入所の際に、じっくりと時間をかけ、説明や質問等に答えることから始まる。又、毎月の面会の際にも、本人の様子伝えつつ信頼関係にもつなげています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や来所にて相談を受けた際は、先ず、ご本人の状況確認と同時に、ご家族への労をねぎらう言葉も添えながら、アドバイスを含めた話し合いをさせて頂き、安心につながるよう心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のまだ出来る事、出来ない事等を把握した中で、手伝って頂いた時には「有難うございます」など必ず感謝の言葉伝えたり、人生の先輩として、昔の行事食や風習なども教えて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への説明の中で、入所後も本人と家族との係わり(絆)がどんなに大事なものであるか。又、その上、施設と家族が、本人の情報を共有しながら支えていく必要があることも伝えつつ係わらせて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、必ず身内の面会お願いしている。と共に、入居者様の甥っ子さんによる”手品”のボランティアや津軽三味線の生演奏、毎月の床屋さん、3ヶ月に1度の”民話の語り部”等の支援継続中。	一人ひとりのこれまでの生活習慣を尊重し、支援に努めている。馴染みの人・物・場所との関係を維持できるように、家族や関係者に積極的なアプローチを心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの能力や関係性をふまえた上で食堂での席順を決める中、職員が仲立ちとなり、日々の関係性を支えています。		

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「医療行為必須」の状況となり、やむなく退所せざるを得なくなっても、同法人の特養への紹介や申し込みの場にも同席し、ご家族が安心出来る様係わらせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を伝えられる入居者様に関しては、耳を傾けその思いを大切に聞き取り、又、意思表示困難な方においても、日々の係わりの中から本人の思いを把握し記録に残したり、面会時、家族にも伝えている。	日々の行動や表情から意向を汲み取り、家族などから情報を得ている。また、過去の生活習慣や生活歴は独自のアセスメントシートを活用し、全職員が共有している。把握が困難であったり、不確かな場合は、管理者・職員で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際ご家族に、今後係わる中で、これまでの生活ぶりや”人”となりを知る必要性を伝えた上で、できるだけ情報の提供頂いたり、又、毎月の面会の際にも会話の場をもち現状を伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の目配りや様子観察の中、一人ひとりの状況や、本人の発した”一言”などにも耳を傾けつつ、気づき場面の記録に心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの「施設に望む事」は、入所時や毎月の面会の際に確認するよう心掛けています。又、職員間でも日々の気づきの記録(個人ケース)等を参考にしながらの作成行っている。	本人及び家族のニーズを踏まえて作成している。概ね3ヶ月の見直しとしているが、日々の気づきの記録や医療関係者の意見も参考にし、状況に応じて臨機応変に対応している。	介護計画は、より利用者の現状に合わせるように、職員全員で意見交換をしながら、きめ細かな計画を作成することに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の係わりの中での気づきや、状況の変化等については、ユニット日誌や個人ケースに詳細に記載し、出勤の際に必ず確認することで、情報の共有図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「居宅療養管理指導や「医療連携体制」等の中、日々、健康管理や急変時の対応に努めている。又、かかりつけ医への通院介助も全て施設対応で実施中。		

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のご協力の下、唄や踊り、語り部、手品、それに、陶芸教室も開き、箸おき、花瓶、入居者様の手形やお地蔵さんも作成済み。粘土に触れている時の表情は、「子供のように目がキラキラ・・・」		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「医療連携体制」の下、看護師によるバイタルチェック、早期発見、早期治療と共に、かかりつけ医への受診(通院)支援も施設対応にて実施中。	本人・家族の同意を得て、法人母体である協力医療機関で受診をしている。看護師によるチェック表などの情報を持って、管理者が通院介助を行い、受診結果を家族に伝えている。訪問歯科の協力も得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「医療連携体制」にて、顔馴染みの看護師による日常の健康管理できており、入居者の方々も、皆楽しみにされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療行為の必要性がなくなった時点にて、ホームでの受け入れ”OK”の部分伝えながら、病院との情報交換や洗濯物を取りに行きながら、本人の状況把握も行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	H. 19年5月1日から「医療連携体制」を開始し、ご家族への説明と同時に、同意書の作成にも至っており、勿論かかりつけ医との連携、共有も図れています。(看取りの経験もある)	利用開始時に、重度化した場合や終末期に向けた指針の内容を説明すると共に、同意書の作成も行っている。また、状況が変わるたびに、事業所の力量を把握し、話し合いを重ねている。同法人事業所の看護師による指導や支援も得られる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「急変時の緊急対応マニュアル」の掲示と共に、法人内で毎月実施の「学習会」でも、看護師指導の下、「急変事の対応」を勉強し、又、急変や事故発生時には、両ユニットで連携し合いつつ対応行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー設置や水、食料の備蓄も行う中、年2回、消防署の立会いや隣接施設の協力の下「避難訓練」実施。又、防火対策として、チェック表による毎日のチェックも実施中。	年2回、消防署立ち会いのもと、夜間を想定した訓練を含む避難訓練を行っている。防火対策チェックを毎日実施し、備蓄も確保されている。	避難訓練を利用者と一緒に行って、手順の再把握に努めること。又、運営推進会議の日に訓練の日を合わせて、会議のメンバーや地域住民の協力を呼びかけるなど、訓練への参加と、緊急時連絡網への組み入れを期待したい。

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、その人らしさを重んじる中、人生の先輩としてプライドを傷つけたり、又、他の方々の前で恥をかかせることのないよう、職員間で注意し合い係わらせて頂いている。	管理者はじめ職員は常に「対人援助の基本原則（個別化・感情表現の自由・秘密保持など）」を念頭におき、ケアに努めている。援助が必要な時も、利用者の気持ちを大切に考え、自己決定しやすい言葉かけや対応をするようにしている。広報誌への写真掲載についても、家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは、傾聴を心掛け、何を望んでいるかを一緒に考える。（職員が先走らないように）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の出来る事（読書、おしぼり丸め、広告でのゴミ入れ折り、洗濯物たたみ）等や、一緒に懐メロを歌ったり、日々の何気ないおしゃべりの中で、その人らしい穏やかな表情や暮らしにつながっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に、その人らしい服装に心掛けると共に、行事の場面や外出の際などにも気配りの支援行っている。又、家族の了解の下、ほぼ全員が移動美容（毎月の来所あり）利用中。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員見守りの中、それぞれの出来る事で、一緒にスーパーへの買出しや、食事の準備（おしぼりやお箸配り）等、率先して係われるよう、こまめな声掛けでの支援に努めています。	利用者の状況に応じて、買物や食事準備を一緒に行っている。カロリー制限や食事形態も主治医の指示を仰ぎながらも、楽しく食事ができるような環境づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方もいる中で、主治医の指示の下、味付けや食事の摂取量にも気を配ったり、水分に関しては、排泄記録も確認しつつの提供を。となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の服薬終了後、洗面所への声掛けや誘導行い、本人の能力にあわせ、見守りや半介助、又は、全介助での支援行っている。		

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録により把握しつつ支援、対応している。又、誘導時も、周りの人に気付かれないよう配慮している。	利用者の身体機能を考慮し、自立に向けて個々に合った排泄支援をしている。排泄チェック表にてパターンを把握し、羞恥心への配慮をしながら、トイレへの声かけ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便(一)時には、乳製品の提供をはじめ、食材にも気をつけている。又、薬の追加服用も含め、看護師との連携もとれている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	「入りたい時間」がある方には、希望通りでの提供とし、又、それ以外の方々に対しては、週3~4回を入浴剤や季節にあわせ、菖蒲湯やゆず湯等も行い楽しんで頂いている。	利用者一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切にされた入浴支援をしている。10時から入浴時間としているが、希望があればその他の時間でも対応している。季節に合わせた入浴剤などを使用し、くつろいでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出勤時には、必ず日誌に目を通し、体調や排泄等の把握を。又、足の冷え訴える方には湯たんぽを、夜中に喉の渇きあれば、ホットミルク等を提供しつつ安眠につなげています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の服薬に関し理解する中、日付けと朝食後薬は(赤)、昼食後(黄)、夕食後(青)に色分け、日々の服薬管理に努めている。又、薬や量に変更あった際にも、個人ケースに記録し全員での把握に心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時、家族より、生活歴や得意な事、興味のあった事などの情報を得、又、一人ひとりの能力も把握しつつ、その人なりの役割に対しても、必ず「有難うございます」等の言葉添えての支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に庭の遊歩道を散歩したり、近隣のスーパーへ、食材の買出しに行っている。又、初詣、お花見、冬は近くの羽田沼での白鳥見学等実施中。〈家族の協力により、足利方面へのドライブもありました〉	短時間でも戸外に出る機会を作っている。職員と共に近隣スーパーへ食材の買出しに行ったり、季節に応じて観光スポットへ出掛けている。時折、家族に協力を仰ぎ、長距離ドライブなどを楽しんでもらっている。	

グループホーム安暮里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より”小遣い”としてホームで預かり、職員見守りの中、ホーム内での散髪の際の支払い等やって頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々、姉からかかってくる電話を楽しみにしている方や、毎月、千葉県在住の息子さんから手紙や雑誌類が届き、嬉しそうに息子の話をされる方など、家族の絆を大事にした支援に努めています。(当ホームでは、毎月、家族の面会あり)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロア内には、敷地内の季節の草花を入居者様との散歩で摘んで来て一緒に飾ったり、手作りの作品(ぬり絵や陶芸)によるそれぞれの手形等々)を展示しています。又、間接照明使用にて、まぶし過ぎぬ空間となっている。	生活感や季節感のあるものをうまく取り入れて、共用空間を整えている。緑豊かな景色を眺められるリビングには畳のスペースがあり、ベランダ入口にはテーブルと椅子が置かれていて、好みの場所でくつろぐことができる。空調や照明が配慮されていて、利用者に不快感をあたえない空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがあったり、ゆったりとしたベランダにはベンチもあり、日向ぼっこもできます。又、事務所内の来客用の椅子がお気に入りに入居者様が多く、時には5人位集まり、楽しいおしゃべりタイムとなっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、家族に、本人の慣れ親しんだ物品等の必要性を伝えた上で、ベッドやタンス、又、ご主人の”遺影”や”お位牌”など持参され、日々目にすることで、穏やかな生活につながっている方もいらっしゃいます。	ベッドやタンス、思い出の品が持ち込まれつつも、安全を考慮した配置をし、それぞれの利用者が安心して過ごせるプライベート空間づくりがされている。居室には床暖房が設置され、窓からは四季折々の風景が一望でき、楽しむことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力を把握、安心、安全も考慮したバリアフリーの中、廊下、フロア、トイレ内等への手すり設置にて、転倒防止に努めている。又、フロアスペースも広く、車椅子でも安全な移動可となっている。		